第３学年国語科学習指導案

１　単元名　組み立てを考えて書こう　－すがたをかえる大豆、食べ物はかせになろう－

２　本時のねらい

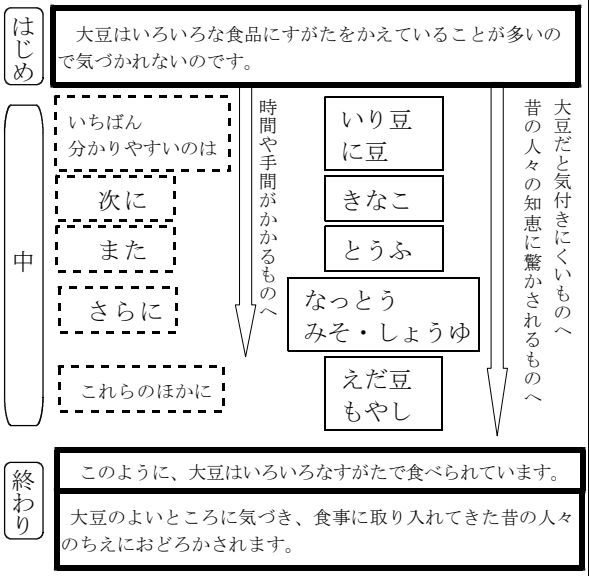
中心となる語句や文（手を加えるときの言葉など）に着目し、筆者の「中」の段落構成を読み取ることを通して、自分の集めた事例を意図的に並べ替えることができる。

３　準備物

【教師】大豆の加工品の写真、ワークシート、段落ごとに切り取ったカード（中のまとまり）

【児童】取材カード、序論・結論を書いている構成メモ、教科書

４　展　開

学習活動・内容（時間：分）	教師の働きかけと評価（評価方法）
１　前時までの学習を想起する。（５） ・全体の文の構造（「はじめ」「中」「終わり」） ・「中」のために集めた食品名 「中」のまとまりを組み立てよう。	○　本時は、「中（本論）」について考えることを知らせ、作文の書き方について学ぼうとする構えをつくる。
２　筆者の配列の仕方の工夫を読み取り、話し合う。（30）  	○　中心となる語句や文（手を加えるときの言葉など）に着目させるために、段落ごとに切り取ったカードを配付し、二人組みで並べ替えをさせる。 ○　接続語の役割を意識させるために、段落ごとに切り取ったカードの接続語は隠しておき、それを全体で確認する。 ○　事例の配列の仕方や配列の意図が表れている叙述に目を向けさせるために、「段落の順番を入れ替えてもよいのでは」と児童をゆさぶる。 わたしは、順番には決まりがある（順番は適当だ）と思います。 なぜかというと、□□だからです。 ○　読み手への意識や結論へのつながりを読み取らせるために、文頭の「いちばん分かりやすいのは」に着目させる。 ㊥　中心となる語句や文から、段落相互のつながりや筆者の意図をつかむことができる。 （話合い、ワークシート）
３　筆者の論の立て方を活用し、自分の集めた事例を意図的に並べ替える。（10） ・筆者の配列の工夫 ・自分の作文への活用 （配列の仕方、意図、段落相互のつながり） ・接続語の使い方	○　事例の並べ替えがしやすいように、それぞれの食品ごとに分けて取材カードに書かせておく。 ○　事例の配列の仕方だけでなく、そのような配列にした理由を書かせ、対話させることで、一人ひとりの考えを表出させる。また意図的な配列をする必然性をもたせる。 ㊥　筆者の並べ方の工夫を活用して、自分の事例を意図的に配列することができる。 （ワークシート、対話） ○　本時の学びを意識させるために、学習の振り返りとして、新しく習得した「技」（段落の順序への意図）を確認する。